

2020 第 2 回「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日 時 2021 年 3 月 23 日 (火) 13:00~15:00

場 所 忠生市民センター会議室 1・2

【出席者】(敬称略)

■委員

関司 直也(委員長)、大谷 賢二、狩野 真功、田中 英夫、大谷 直勝、中丸 康明、

山崎 凱史、岸 由二、福原 斉、神谷 由紀子、坂本 愛、宮下 徹

■事務局

守田北部・農政担当部長、粕川農業振興課北部・里山担当課長、牛腸担当課長、喜多担当係長、松井担当係長、新主事、浅場主事

■傍聴者

0 人

【資料】

次第

2020 年度第 1 回検討委員会での主な意見及び対応について(資料 1)

町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの総括について(資料 2)

「(仮称)町田市里山環境活用保全計画」の策定に係るアンケート調査結果及び計画の策定について(資料 3 及び別紙)

【議事要旨】

・事務局から 2020 年度第 1 回検討委員会での主な意見及び対応、町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの総括、「(仮称)町田市里山環境活用保全計画」の策定に係るアンケート調査結果及び計画の策定等を説明した。

・質疑応答及び意見交換を行った。

【会議内容】

1 開会あいさつ

・経済観光部北部・農政担当部長から挨拶

2 2020 年度第 1 回検討委員会での主な意見及び対応について

1. 委員 これからは、里山環境を活用し、そこで得た収益を環境の保全につなげていかないといけない。鶴見川源流、上小山田みつやせせらぎ公園、野中谷戸で活動している。以前は、市の委託を受け活動しており、その当時は企業からの協賛金や寄付金も認められていた。昨年度から補助金となり、企業からの資金援助を受けてはいけないと言われた。専門学校との協定も廃止された。規制が多いと里山環境の保全にはつながらない。

2. 事務局 資料や説明のとおり、里山環境を活用し、そこで得た収益を環境の保全につなげて構わない。委託より補助制度の方が自由度がある。
3. 委員 かなりの規模で、商品になるような野草を育てている。神奈川県の三浦半島にある小網代では70haの里山を管理している。ここでは、公共の目的であれば、直接、里山資源の販売やイベントの実施、企業等からの寄付金が認められている。以前は、神奈川県が間に入っていたが今は違う。
4. 委員 神奈川県のその場所は、民有地であるのか。
5. 委員 県有地である。
6. 事務局 繰り返しになるが、里山環境を活用し、そこで得た収益を環境の保全につなげて構わない。
7. 委員 そのように進める。

3 町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの総括について

1. 委員 1番大切なことは、地元の住民がどのように計画を受け入れるか。長い間この地域に住んでいるが、里山の魅力に気づいていない人が多い。昔の書物にも小山田に関することが書かれている。地元住民が地域のことを知らない。地元住民が里山の魅力を知る機会をつくることが大切である。知ることが郷土愛にもつながり、その結果、計画も受け入れられると思う。
2. 委員長 地域住民が里山の魅力を知るきっかけをつくることは大切である。
3. 委員 なかなか事業が進んでいない。そのため、事業を絞り込んで進めていくことが必要。検討委員会でも検討する範囲が広すぎる。アクションプランの中で何か成果があれば良かったと思っている。
4. 委員長 次の計画では進め方を考える必要がある。
5. 委員 配布された資料が見つらい。事業内容を聞いてもわからない。総括しているが、よくできているとは思えない。生活道路（忠生495号線・忠生496号線）についても測量を実施したが、そのことについての記載がない。過去のことを言及することは止めて、これからのこ

とを期待する。資料の評価方法についても疑問が残る。これは、市の採点であって、地域のための資料にはならない。次回の計画には、評価指標を検討することや地域の方にとって関心がある事業を入れてほしい。

6. 委員

事業番号13（市街化調整区域における土地利用方策の検討）は、地域の実情にそぐわない計画になっている。事業番号14（里山の景観を楽しむ散策コースの整備）は、散策道に柵をつけてもらった。柵がある場所は眺望が良いため、人気があり、正月にはテレビ放映された。事業番号15（花のある道づくり）は、市と鶴見川源流ネットワークの共催事業で実施した。ヤブカンゾウを市民と共に植える取組は良いことである。全体としては、この地域が国の計画にどのように位置づけられているか確認しないとイケない。アクションプランには、都市計画を見据えた計画になっていない。地域の要望を集めた計画ではいけない。国や都がこの地域でどのような街づくりを考えているのか市は勉強して、次の長期計画には活かしてほしい。

7. 委員

この計画は地域の個別要望に感じるが、どのようにすると地域が幸せになるのかわからない。身近な願いであるが、コロナ禍において、市場に出ない美味しいものを消費者に届けられるようにしたい。最近では、市内に若い方の移住が増えている。SNS等の情報発信を活用し、農家と市民を近づけられるようにしてほしい。

8. 委員

市民として60年近く住んでおり、農業部門の立場から市政に関わってきている。地元の方はアクションプランが進んでいないと思っているが、私は狭隘道路の拡幅やバスの新規運行等、牛歩のようであるが進んでいると感じる。

9. 委員

小山田地域に住んでおり、少しずつ道路事業が進んでいるように感じる。住民・来訪者アンケートの結果のとおり、子供からは、自然は大切であるとの声を聞いている。大人よりも子どもの方が里山の恩恵を実感しているのではないか。

10. 委員

アクションプランを策定した当時はベストの計画であったと思うが、今となると計画や運営等を途中で見直す必要があったのではないか。イベントについても、個人的には参加者数の実績値よりも、満足度を指標にする方が良い。コロナ禍で奈良ばい谷戸には人が増えた。バスではアクセスが悪く不便である。東京都の小山田緑地の駐車場は奈良ばい谷戸を利用するためだけには駐車できない。今後は駐車場整備の

ことを考えてほしい。

- 1 1. 委員 小野路に引っ越して27年が経過した。里山交流館の事業に関わって14年が経過した。他の委員の意見のように、行政は何もしていない。里山交流館はたまたまうまくいった。新しい担当課長には期待している。これからは、色んなことができると思う。
- 1 2. 委員 地域住民のための生活道路整備があって、はじめて日常の生活が送れる。今でも幼稚園バスや消防車が通れない道路がある。住民・来訪者アンケートは里山環境の活用と都市基盤の整備を並行して進めてほしいと記載されていた。計画には多くの事業があるが、地権者としては都市基盤整備を併せて行ってほしい。
- 1 3. 委員 コロナ禍で、自分が地元のことを知らないことに気付いた。外部の人がこの地域を評価している。色んな情報や計画があるが、小野路地域の方もアクションプランについては知らない。そのため、計画を知ってもらう必要があるのでは。自らが情報を取りにいかないといけないため、情報を得ることができる手段をつくってほしい。地域住民が地域のことを知らないのは情けないので、知っていききたい。情報を知ることができる場があるとよいのでは。海外からも人が入ってきている。里山という魅力がある場所を大切にしたい。
- 1 4. 事務局 委員の皆さまと感じていることは同じである。計画本体や運営、指標等には問題があった。また、新たな計画をつくる際は、関係者に丁寧な説明を行い、さらに、国の動きや計画、市の関連部署との共有は漏れなく行う。都市づくりのマスタープランとも整合を図りながら進めていき、里山を守っていく。将来を担う若い方や子どもたちの意見は大切である。そのため、学校や子どもにも話を聞きに行く。過去のことは反省し、失敗を繰り返さないように関係者と意見交換を行い、計画をつくっていききたい。
- 1 5. 委員 今後は、2040年、2050年を見据えた計画づくりをしていかなければならない。パリ協定で2050年に脱炭素社会を目指すと言っている。都市計画等の法令改正も迅速に行われている。国の計画や法令をもとに、市は今後のまちづくりの方向性をいくつか市民に提示していくべきである。行政だけではわからない情報は学識経験者である委員長が伝えるべきである。
- 1 6. 委員 人を集めるには駐車場が必要である。道路等のハード整備も必要であ

るが、里山の計画と調和するように考えなくてはいけない。駐車場の整備についても、舗装しない方法があるので、参考にしてほしい。

17. 委員長

アクションプランから関わることになった。新たな計画は中身を検討していかなくてはいけない。併せて、ゾーニングや実施手法、評価方法を検討していく必要がある。また、時代の変化にも対応できる計画づくりが必要。地域のアイデアから計画をつくる方法と時代の変化に対応して計画をつくる方法の両方の視点からつくるのが大切であると感じる。地域の子どもや女性の意見も大切である。これからは、家族の在り方も変わっていく。そのような、見えにくい視点や意見が現計画には入っていない。この委員会についても、事務局の職員が大きく変わった。市としても、北部丘陵を担当する部門への位置づけが弱いのではないかと。ようやく事務局の体制も落ち着いてきたようであるので、今後は着実に進めてほしい。行政へのお願いは、現場の実情や時代がどのように向かっていくのか勉強していく必要がある。地方の行政職員の方が危機感を持って街づくりに取り組んでいる印象がある。そして、情報を地域と一緒に共有してほしい。今後も学識経験者として協力することになれば、地域や行政の方とともに進めていきたい。

4 「(仮称) 町田市里山環境活用保全計画」の策定について及び 住民・来訪者アンケート調査の結果報告について

1. 委員

アンケート調査の結果、住民以外から里山環境への評価が高いことがわかった。このデータを活用して計画をつくってほしい。

2. 委員

住民の合意形成は難しい。道路事業においても民有地の所有者が反対すると進まない。よい案があっても慎重に進めていく方がよい。今後も市の計画と一緒に進んでいきたい。

3. 委員

アクションプランは活性化計画が前提となる計画であったので、構成自体に問題があった。活性化計画の見直しは、清掃工場の建て替えの際に、2015年度に計画を改正すると市長から上小山田町内会へ回答があった。新たな計画は3回の検討委員会の審議の中で、5月に検討委員会設置、11月に計画案完成となると実際の審議は1回しかできない。また、担当部署が農業振興課であるのもおかしい。今後は三輪や相原も検討していくとのことであるが、なおさら、1回の審議でできるとは思えない。また、学校の適正規模、適正配置において、小山田小学校は廃校になる見込みである。小学校中心の街づくりを考え

ていたところであった。担当部署が農業振興課であることや小山田小学校を廃校にすることを通して、市はこの地域をどのように考えているか読み取れる。これからは、市内一丸となって、この地域を良くしてほしい。

4. 委員 現在の緑の配置や利活用では豪雨時に対応ができない。小流域単位で小さな区画整理を行い、新しいまちづくりへのモデル地区として発信してほしい。

5. 委員 市街化調整区域での区画整理は、基本的には認められていないが、国の担当者によれば、市が事業者となり、特区制度を活用すれば、区画整理事業を実施できる可能性があると言及していた。里山では境界がわからないところが多いため、個人として、緑地を守ることができない。そのため、新たな計画では緑を守るためにも区画整理が必要。

6. 委員 コロナ禍で地域に若い人が入ってきており、フットパスで散策する方も増えてきている。区画整理事業を実施するのも良いが、緑は残してほしい。そのため、地域の方の意見も大切であるが、こちら側の意見も入れて新たな計画をつくってほしい。

7. 委員 基本は緑を守るための区画整理事業である。現状の荒廃している里山ではフットパスもできない。

8. 委員 大規模なハード整備に併せて周辺を居住区と緑を守る地区に分ける新しい区画整理事業の方法もある。

9. 委員 カーボンニュートラルに伴い、世界が変わっていく。町田市も新たな基本計画を作成中である。みんなで知恵を出して新たな基本計画をつくっていききたい。3. 11の震災があったが、未だに原子力エネルギーに頼っている。震災が脱炭素に向けて変わるきっかけであったが、変えられない現状がある。炭素の取扱いはどうするのか。国や都と連携を取りながら、市民に説明してほしい。

10. 委員 住民・来訪者アンケートの結果から、町田の里山に神奈川県から訪れる方が多いということがわかった。この来訪者へのアプローチは強化していくことが大切である。コロナ禍で外出する方も増えている。薬師池公園も散策者の方が多い。散策を通して、里山を残していくことはキーワードとなる。今後も町田の里山の魅力を発信していく。

- 1 1. 委員 アンケート調査で回答者の属性も集計しているとのことであるが、何か大きく異なる項目はあるのか。また、クロス集計の結果は出ているのか。
- 1 2. 事務局 クロス集計の結果については、まとまり次第伝える。それぞれの属性への効果的な対応が必要であると考えている。
- 1 3. 委員 新たな里山の計画をつくるとのことであるが、今までと同じような結果となるなら、計画はつくらなくてもよい。やれるところからやらないと、市民からの行政への評価も厳しくなる。やれるところを絞って、住民に丁寧の説明しながら進めてほしい。このままでは市民は行政についていけないため、姿勢を変えていくことが大切である。
- 1 4. 委員 小山田桜台付近の住民に小山田の里山について聞いても意味がない。やり方を反省してほしい。
- 1 5. 委員 2040年の未来づくりビジョン策定にあたって、地域の地権者としてお願いがある。都市基盤は最大限の課題となっているため、進めてほしい。例えば、水路、道路、あぜ道。担当課で積極的に整備を行ってほしい。そういうことを考慮したプランにしてほしい。里山保全についても、まずは、地域住民の生活環境を考えてほしい。外からくる人にとっても、環境が整えられていることは大切である。今後は、少子高齢化となるため、施設の集約を考えた街づくりを行ってほしい。
- 1 6. 委員 在住している小野路地域にもアンケート調査が行われた。市街化調整区域では建設物は建てられないが、山にプレハブ小屋があり、地域住民外の業者が利用している。地域住民外の業者を野放しにしている状態でのアンケート調査は何の意味があるのか。法律違反をしている業者を取り締まってほしい。里山は資材置場か墓場として利用されているのが現状である。業者に注意するとダンプトラックで追われたこともあった。住民からの要望で指導するのではなく、行政は自ら指導してほしい。
- 1 7. 委員長 地域の暮らしの部分で、現計画に位置付けているハード整備が、次期計画に反映されるのか。
- 1 8. 事務局 これまでの行政に対する厳しい意見は期待の表れでもあると感じている。ハード整備については、「(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン」を始めとする各部門の計画や町田市住みよい街づくり条例を始

めとする条例、地域の皆さまからの要望等に基づいて、対応していく。福祉問題については、地域ホッとプラン（仮称）、環境問題については、第3次町田市環境マスタープランでを策定する中で議論されている。想像以上に里山環境が荒廃していることを実感した。今後は現場を歩いたり、地域の方と情報共有を行いながら連携して進めていきたい。検討委員会の回数が少ないことについては了解した。予算の兼ね合いもあり、検討委員会は3回であるが、厳しいと感じている。そのため、回数を増やして対応していく。

19. 委員 東京都の公園整備は県外の業者で行っているが、新たな計画の中で、整備する場合は地元の業者を使うことを位置付けることはできないのか。新たな計画では、学校、大手企業、行政が中心となる大きな組織で運営し、その中で緑を守ってほしい。

20. 委員 里山の保全活動にあたり、市からは300万円の補助を受けているが、以前は1500万円であった。以前と比べると今ははるかに安い金額である。色んなところから支援されているため、活動ができている状態である。他のNPO法人では同様な活動はできない。

21. 事務局 里山保全は、地域や事業者と関わりながら進めていくことが大切である。今後でもできるところから活動を行ってほしい。市は必要に応じ、出向いて相談を受ける。広大なエリアであるため、北部丘陵内に関係する方だけで里山保全を行うことは厳しい。そのため、企業に活用できるかヒアリングを行っている、その後、企業と地域と結び付け雇用につなげていきたい。

22. 委員 街づくりにあたって、市街化調整区域では土地や建物等、法律の問題が出てくるため、市は積極的に法令改正を働きかけ、新たな計画に反映させてほしい。

23. 事務局 都市計画に関することは、里山の計画には入れることは難しい。頂いた意見は担当部署に伝えていく。色んな計画が進むため、同時並行に取り組んでいく。市内でも密に情報共有を行っており、縦割りの脱却を図っている。そのため、市内一丸で取り組んでいく。

24. 委員 なぜ人が減るのかというと、市街化調整区域では分家を建てることできないからである。次男や三男では移転を認められていない。子どもは外に出て、過疎化が進むのが現状である。そのため、次男や三男でも分家を建てれるように法律改正を働きかけてほしい。

25. 委員 次男や三男でも分家住宅は建てられる。問題は土地の活用ができないことである。住宅ローンについても、市街化調整区域の土地を担保としてお金を貸してくれない。秩序ある開発は、里山の保全につながる。分家住宅を建てる際にも生活道路は必要である。
26. 委員長 地域にとって人口減少は切実な問題である。今は里山保全を地域住民だけで行うことはできない。そのため、外の力が必要である。どれくらい人が住み着くか考えていく必要がある。緑地や既存の住宅を財産として捉え、地域で活用方法を考えていくことが必要になってくる。外部の力で里山保全活動を行うにしても、地元が賛成することが前提である。小学校がなくなると、ファミリー層はこない。里山の計画でどこまで考えていくのか。ハード面について、議論を行い、つなぐことはこの場でできる。都市づくり部署に任せるものを分けていく必要がある。その際、ハードの取扱いをどのようにするのかは、整理が必要。現行は、ハードとソフトを一体で議論できたことはプラス面として評価できる。行政はハード面をどのようにするか検討体制を考えてほしい。また、計画の実行性を該当する部署に持たせてほしい。外部の力を追い風に、地域の最低限の暮らしを持たせた上で進めてほしい。
27. 事務局 委員長ありがとうございました。また、委員の皆さまも貴重なご意見ありがとうございました。お時間の関係で、ご意見の集約ができていないかもしれません。もし、ご意見等ございましたら、後日でも構いませんので、お電話・メール・FAX等でご連絡をお願いします。また、後日本日の議事要旨をお送りしますので、ご確認をお願いします。既にご説明のとおり、アクションプラン検討委員会はこれにて閉じさせていただきます。2021年度は「町田市里山環境活用保全計画策定委員会」で新しい計画の策定に向けたご意見をいただきたいと考えております。本日は、お忙しいところ貴重なお時間をいただきありがとうございました。

閉会